

**早期の胃がんは、
ご自分ではまず気づきません。
見つけられるのは、
専門家だけです。**

早期の胃がんは、自覚症状がないのが普通です。
あったとしても、胸やけ、吐き気、食欲不振など、
「今日はちょっと調子が悪いかな」
と思うような軽いものです。
「異常を感じたら検診に行こう」では、
手遅れになる場合があります。

**早期発見するためには
専門家による検診を2年に1度
定期的に受けることが大切です。**



胃がん検診を受けるには

0. 市区町村からの案内や、
市区町村ホームページで確認する

- ・今年度の助成対象かどうか、検査費用
- ・受診できる医療機関、日程、時間 など

1. 受診場所・受診日を選ぶ

2. ☎ 実施医療機関や市区町村に
直接予約

3. 受診する

4. 結果を確認する※

約2～3週間後に自宅に郵送されます。
検査結果を確認してください。

お住まいの市区町村から 検査費用の助成があります！

多くの市区町村では、50歳以上の方に検査費用の
助成があります。
胃がん検診は、助成がない場合、7千円程度かかる
検査です。
ぜひこの機会に受診してください。

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

検診について詳しくは

お住まいの市区町村のがん検診担当窓口にお問い合わせいただくか、
市区町村のホームページをご確認ください。

〇〇市 がん検診

🔍 検索

**最後に
胃がん検診を
受けたのは、
何年前ですか？**

**安心のために、
2年に1度は胃がん検診**

テレビ番組のご案内
がん検診受診率向上〈希望の虹プロジェクト〉
静岡社会健康医学大学院大学 溝田友里准教授 が制作に協力！

NHK あしたが変わるトリセツショー
「がんのトリセツSP」(仮)
2024年10月17日(木) 総合 19:30～放送予定

胃がん検診には、2つの検査方法があります。^{※1}

下記の特長をよく読んで、あなたに合った検査方法を選んでください。

①バリウムによるX線検査

- ＊ 検査時間は10分程度
- ＊ 他の検査とまとめて受けられる
- ＊ 飲むバリウムの量はこれだけ



②胃内視鏡による検査

- ＊ 検査時間は約30分～60分程度
- ＊ 平成29年度より国の指針に追加
- ＊ 経口内視鏡検査

先端にカメラのついた
細い柔軟チューブを口
から体内に挿入し、胃内部
を観察する検査です。



(経鼻内視鏡検査を選べる場合があります。
詳しくは医療機関へお問い合わせください。)

※1 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれられない場合もあります。

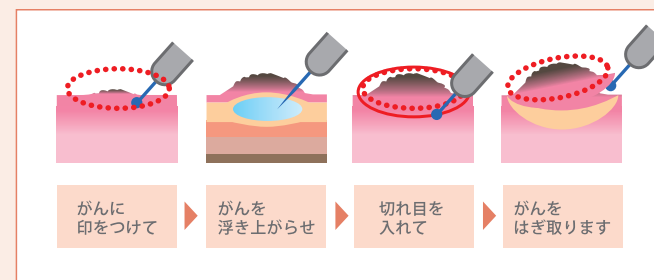
早期に見つければ、95%以上治ります。検診は2年に1度、定期的に受けてください。

ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、
次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

※2 ここでいう「治る(＝治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率で、I期(早期がん)で発見された場合の値を示しています。
相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。 出典：全がん協加盟施設における5年生存率(2010～2012年診断例)

**胃がんは“なりやすい”がん
ですが、“治しやすい”がん
でもあります。**

胃がんが見つかって、
早期なら、胃を取らずに内視鏡で
がん細胞だけはぎ取れます。



**胃がんはわが国では50歳代以降に
罹患する人が多く、がんによる死亡原因の
上位に位置するがんです。^{※3}**

※3 胃は、がんに罹患した人が2番目に多い部位です。(2018年男女計)
出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」
(全国がん登録)

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず
精密検査を受けてください。

その場合の精密検査は、「X線検査の精密検査は胃内視鏡検査」
「胃内視鏡検査の精密検査は生検(組織の一部を採取して調べる)
または、胃内視鏡検査の再検査」を行います。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス

このリーフレットは、がん検診受診率向上<希望の虹プロジェクト>が作成しました。